

平成28年度 個人評価の集計・分析

芸術地域デザイン学部

評価委員会

平成29年9月

目 次

1	個人評価の実施状況	
	(1) 対象教員数、実施率等	3
	(2) 実施概要	3
2	評価領域別の集計及び分析	
	(1) 教育の領域	5
	(2) 研究の領域	6
	(3) 国際・社会貢献の領域	7
	(4) 組織運営の領域	8

1 個人評価の実施状況

(1) 対象教員数、実施率等

平成 28 年度個人評価では、対象となる教員 23 人全員が活動実績の報告を行った。

平成 28 年度個人評価実施率

コース	対象教員数 (人)	未提出者数 (人)	実施率 (%)
芸術表現コース	8	0	100
地域デザインコース	15	0	100
合計	23	0	100

(2) 実施概要

① 評価組織の構成

学部長	小坂 智子
教育研究評議員	荒木 博申
副学部長	山下 宗利
芸術表現コース	赤津 隆
地域デザインコース	西島 博樹
事務長	横尾 寿人

② 実施内容、方法

佐賀大学芸術地域デザイン学部における教員の個人評価に関する実施基準（平成 28 年 7 月 20 日制定）に基づき、平成 28 年度の活動実績について、4 領域（教育、研究、国際交流・社会貢献、組織運営）の個人評価を行った。

③ 個人評価の経緯等

- ・平成 29 年 4 月 19 日（水）開催の教授会において、学部長から、対象教員に対し、個人評価関係書類（活動実績報告書（様式 2）、自己点検・評価書（様式 3））をメールにて送信するので、平成 29 年 5 月 19 日（金）までに、コース担当者（芸術表現コース：赤津、地域デザインコース：西島）に提出するよう依頼した。
- ・提出された関係書類（様式 2、3）について、学部評価委員会を開催し審査を開始した。対象教員 23 人全員の個人評価を行った結果、各教員による自己点検・評価の結果は、概ね妥当と判断した。
- ・学部長から、対象教員に対し、個人評価結果を通知した。その際、評価結果に対して不服がある場合は、1 週間以内に不服申立書（様式任意）を学部長まで提出するよう付記した。
- ・不服申立書を提出した教員はいなかった。

- ④ コースごとの個人評価結果と平均値は、以下のとおりである。

平成 28 年度個人評価結果

単位：人

	芸術表現 コース	地域デザイン コース	計
5.0~4.5 以上	8	11	19
4.5 未満~4.0 以上	0	3	3
4.0 未満~3.5 以上	0	0	0
3.5 未満	0	1	1
計	8	15	23

平成 28 年度個人評価平均点

	芸術表現 コース	地域デザイン コース	学部平均
教育領域	1.47	1.63	1.58
研究領域	1.59	1.40	1.47
社会貢献・国際交流領域	0.94	0.85	0.88
組織運営領域	0.97	0.78	0.85
計	4.97	4.66	4.78

2 評価領域別の集計及び分析

(1) 教育の領域

芸術表現コースの教員と地域デザインコースの教員とでは、実施した教育内容に差異が存在している。初年度であるため前者は文化教育学部美術・工芸課程の2年生以上と芸術地域デザイン学部の1年生を担当したのに対し、後者は芸術地域デザイン学部の1年生が主たる対象であった。このような差異は教育の領域の卒論指導の違いとなって現れ、前者では学部主査・副査の指導が多かったことがわかる。しかし、このような差異はあるものの、個人評価結果では教育領域の平均点は、芸術表現コース：1.47、地域デザインコース：1.63で、平均点は1.58となり、4つの領域の中で最高点を示していることから、学部教員が教育活動に積極的に貢献していることが看取できる。教育改善と学生支援の各事項について高得点が得られている活動が多い。一方で、活動間に得点差があり、全教員のより積極的な関わりが必要な活動もみられ、これらを改善していくことが課題である。

領域	事項	区分	芸術表現 コース	地域デザイン コース	計
教育の領域	講義	教養教育担当時間数	132	531.5	663.5
		学部担当時間数	3010	3107	6117
		大学院担当時間数	1133	1358	2491
	教育改善の実績(該当箇所)に1を記入)	授業評価を参考に授業内容・方法の改善	6	10	16
		授業のための教材等の作成	6	12	18
		教育内容等に関する研究活動	3	6	9
		TA・RAの採用	3	1	4
		HPを通じた全ての担当科目のシラバス公開	7	15	22
		HPを通じた全ての担当科目の成績評価の方法・基準等の作成	8	15	23
		教育関係の研修への参加	7	11	18
		リメディアル教育の実施	4	1	5
		公開授業の実施	2	3	5
		その他の教育改善	1	5	6
	学生支援の実績(該当箇所)に1を記入)	オフィスアワーの実施	8	14	22
		研究生の指導	2	2	4
		学生研修の引率	8	12	20
		就職のための特別指導	4	6	10
		学生の海外派遣	3	1	4
		短期プロ等による留学生指導	2	2	4
		学年担任, クラブ顧問	8	13	21
		留学生・社会人・障害者の持続的な生活指導等	1	4	5
		その他の学生支援	8	4	12
		研究指導	学部主査(件)	24	17
	学部副査(件)		39	16	55
	大学院主査(件)		3	9	12
	大学院副査(件)		8	8	16
	研究成果発表の指導(件)		12	6	18

(2) 研究の領域

芸術表現コースの教員と地域デザインコースの教員とでは、研究のスタイルが大きく異なる。そのため、前者では「国内外学術活動」での実施件数が多い（34件）のに対し、後者では「学会発表」（24件）や「学会出席」（27件）での実施件数が多い。いずれにしろ、それぞれの分野の特色を活かした研究活動が活発に行われており、次年度以降も継続したい。外部資金に関しては、芸術表現コースにおいて、研究責任者としての採択件数が0件であった。改善するための努力が必要である。

領域	事項	区分	芸術表現コース	地域デザインコース	計	
研究の領域	専門書等の出版	母国語&単著(編)	0	9	9	
		母国語&共著(編)	2	0	2	
		母国語以外&単著(編)	0	0	0	
		母国語以外&共著(編)	0	2	2	
	国内外学術活動	全国規模の芸術活動・演奏活動・競技活動(件)		10	2	12
		その他の芸術活動・演奏活動・競技活動(件)		22	0	22
		海外での芸術活動・演奏活動・競技活動(件)		2	0	2
	国内学術雑誌への記載	第一著者&審査制(編)		0	0	0
		第一著者&無審査制(編)		6	2	8
		第一著者&紀要		0	1	1
		第一著者以外&審査制(編)		0	1	1
		第一著者以外&無審査制(編)		0	0	0
		第一著者以外&紀要		0	3	3
	海外学術雑誌への記載	第一著者&審査制(編)		3	0	3
		第一著者&無審査制(編)		0	0	0
		第一著者&紀要		0	0	0
		第一著者以外&審査制(編)		4	3	7
		第一著者以外&無審査制(編)		0	0	0
		第一著者以外&紀要		0	0	0
	国内外学術講演	海外(回)		2	0	2
		国内(回)		4	3	7
	国内での専門分野の学術活動(件)			11	9	20
	海外での専門分野の学術活動(件)			3	3	6
	国内学会賞等(件)			1	2	3
	海外学会賞等(件)			2	0	2
	国内学会の開催(件)			5	4	9
	海外学会の開催(件)			0	0	0
	学会発表等	研究発表(件)		10	20	30
		座長等(件)		6	4	10
	学会出席(回)			5	27	32
	外部資金(科学研究費を含む)申請	採択(研究責任者)(件)		0	12	12
		採択(分担者)(件)		1	6	7
		採択(研究協力者)(件)		2	0	2
		不採択(件)		4	7	11
国内外共同研究	海外(件)		0	2	2	
	国内(件)		1	8	9	
特許等			0	0	0	
その他(件)			2	4	6	

(3) 国際・社会貢献の領域

国際貢献領域では、DAE (DESIGN ACADEMY EINDHOVEN、デザインアカデミー・アイントホーヘン、オランダ)、ハレ芸術デザイン大学 (ブルク・ギービヒェンシュタイン 芸術デザイン大学ハレ、ドイツ) など、大学間の交流協定に関する貢献が多くなっている (芸術表現コース7件、地域デザインコース2件)。

社会貢献領域では、芸術表現コースの教員は、市町村行政・教育委員会などとの組織協力 (16件)、講習会等 (14件) への貢献が多い。また、地域デザインコースの教員は、研究領域の特性を反映して、国や自治体など行政組織の審議委員としての貢献が突出して多く (42件)、講習会等 (20件) への貢献がそれに続いている。

領域	事項	区分	芸術表現 コース	地域デザイン コース	計
国際交流・ 社会貢献の 領域	国際貢献				
	国際交流(件)	運営	0	1	1
		海外参加	2	0	2
		国内参加	0	1	1
	国際学会(件)	運営	0	0	0
		海外参加	0	0	0
		国内参加	0	0	0
	交流協定(件)		7	2	9
	国際協力(件)		0	1	1
	共同研究者の受け入れ(件)		0	1	1
	HP(外国語版を含む)(該当箇所1を記入)		8	9	17
	地域貢献				
	審議委員(件)		4	42	46
	組織協力(件)		16	4	20
	講習会等(件)		14	20	34
	マスコミ(件)		8	3	11
	技術移転(件)		1	0	1
	社会参加(件)	組織を運営	1	1	2
		個人参加	4	3	7
	公開講座(件)		2	8	10
附属学校園等での共同研究(件)		1	1	2	
附属学校園等での指導助言(件)		0	2	2	
その他(件)		2	11	13	

(4) 組織運営の領域

新任教員を含め、教員全員が各々複数の全学・学部委員会に関わっている。教員数に対する委員会の数からして、多くの委員会活動に当たらざるを得ないのが実情でもあり、半数以上が委員長としての立場にある。自己点検評価の重み配分は低めに設定している教員も多いが、それぞれ着実に任にあたっているとよい。負担は極力公平になることが理想だが、委員会によって仕事量に大きな差もあり、教務や入試などは学部発足間もないこともあって負担が大きく、担当する委員会の数では計れないところがある。

領域	事項	区分	芸術表現 コース	地域デザイン コース	計
組織運営の 領域	学長特別補佐・評議員・全学委員等の活動・過半数代表(件)		15	27	42
	学部長・副学部長・佐賀大学美術館副館長(件)		0	3	3
	学部・課程の委員・検討部会等の委員(件)		25	26	51
	教授会・委員会の出席実績(80%以上の場合1を記入)	教授会出席	8	12	20
		研究科委員会出席	8	12	20
	大学や学部が開催する行事への参加(件)		27	24	51
	学部の代表として全国・地区の会議・研修への参加(件)		4	0	4
	全学教育機構運営委員・部会長(件)		2	4	6
	入試における出題委員・採点委員等(件)		92	49	141
	その他(件)		22	3	25